

絵の具などを使い自由に絵を描く子どもたち＝川崎市中原区のとどろきアリーナ



■よこはま・かわさき

アートな遊びで笑顔

横浜国立大
学生ら

中原区の避難所慰問

美術教育などを学ぶ横浜国立大学の学生らでつくるゼミナール「アートツール・キャラバン」が23日、被災者約100人が身を寄せる川崎市中原区のとどろきアリーナにある避難所を訪問。オリジナルのおもちゃで遊ぶワークショップ「あそんでつくるアートなあそびば」を開催し、避難所や地域の子どもたちが参加した。

(松島 佳子)

アートツール・キャラバンは「自分の感じていることを大切にしたい」と、五感を刺激する独自のおもちゃを使ったワークショップを各地で展開している。

今回は、東日本大震災発生後に「自分たちにできることは何か」と考え続けた学生や卒業生が中心となり、計画した。ゼミナールを取りまとめる大泉義一准教授は「子どもたちは不安を抱えながらも、徐々に新しい友だちと仲良くなりつつあると思う。自由に遊んでもらいたい。会場では、

ユニークなおもちゃが多数並べられた。

風船の中に小麦粉や豆など好きな物を入れて作る置物「何のたまご？」に興味

個性際立つ「三人展」

異なる世代の美術家作品

中区の画廊

美術家の田中岑さん

(90)、渡辺豊重さん(79)、海老塚耕一さん(59)による

「三人展」が、横浜市中区のせんたあ画廊で開かれていた。30日まで。

ともに親交が深かった、美術評論家の故・佐々木静一さんにささげる展覧会として企画された。会場には、小さな木箱にさまざまな色彩を施した田中さんの作品

を示した中原小学校5年の小田さくらさん(10)は「たまごを握ると、感触が気持ちいい。自分で作るの達成感もある」と笑顔。絵の具に粉を混ぜて絵を描く女児の姿もあり、子どもたちは思い思いに芸術を楽しんでいた。

市営地下鉄ブルーライン

電力削減へ

LED導入

3年間でホームなど使用電力を30%削減する